

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 剰余金の配当 9月30日・3月31日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

株主名簿管理人事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社
 証券代行部
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

公告の方法 下記ホームページに掲載する。
<http://www.nsg.co.jp/>

会計監査人 新日本有限責任監査法人

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、

- (1) 買取請求または
- (2) 買増請求(ご所有の単元未満株式と併せて1単元(100株)に達するまでの株式を買い増すこと)をすることができます。

お手続きの詳細につきましては、一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様(証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様)につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

郵便物ご送付先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社
 証券代行部

電話ご照会先 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)

会社概要 (2018年3月31日現在)

商号 日本板硝子株式会社
本店 〒108-6321
 東京都港区三田三丁目5番27号
 (住友不動産三田ツインビル西館)
 TEL: 03-5443-9500

設立 1918年11月22日
従業員数(連結) 26,957人
資本金 116,546百万円
上場証券取引所 東京(証券コード: 5202)
お問い合わせ <http://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us>

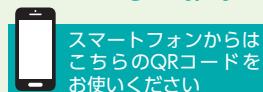
お知らせ

第152期定時株主総会の議決権行使結果につきましては、臨時報告書により、インターネット上で、EDINET (<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>) に掲載されるとともに、当社ホームページにおいても開示されます。これらをもって決議通知に代えさせていただきますので、ご了承ください。

ホームページのご案内

当社グループのホームページでは、決算情報や最新プレスリリースなど、様々な情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

<http://www.nsg.co.jp/ja-JP> 日本語版



株主の皆様へ

日本板硝子株式会社
 第152期 報告書
 2017年4月1日 ~ 2018年3月31日

「ガラス技術で世界に変革を」

証券コード: 5202

自動車用ガラスにおける当社の高い造形技術は顧客から高い評価をいただいております。今後もヘッドアップディスプレイなど自動車の「つながる化」(コネクティビティ)の実現に貢献してまいります。

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第152期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の概況についてご報告申し上げます。

当期はMTPフェーズ2の初年度でありました。営業利益につきましては、事業毎、地域毎での進捗スピードの差はありましたが、期初に発表しました計画通りの実績を上げることができました。また、最終利益は米国法人税率引き下げに伴う繰延税金資産の取崩しの影響により期初の計画には届きませんでした。前期実績を上回りました。キャッシュ・フローにおきましては期初の計画の通り100億円を超えるフリー・キャッシュ・フローを生み出すことができました。

2018年6月



日本板硝子株式会社
代表執行役社長兼CEO

森 重樹

2018年3月期の総括

当期は、建築用及び自動車用ガラス事業での好調な市場環境と生産性の改善、及びVA化の進展、高機能ガラス事業での販売の増加やディスプレイ事業のコスト改善により、売上高は6,039億円(前期比4.0%増)、営業利益は357億円(前期比19.4%増)と5期連続で増益になり、税引前利益も222億円(前期比50.3%増)と大幅に回復し、2期連続の最終損益黒字化と増益を達成することができました。継続的に取り組んできたコストダウンやリストラクチャリング等の施策の効果が発現し、また好調な市況にも支えられ、安定的な利益とキャッシュ・フローの創出が可能な財務体質へと改善が進んでまいりました。

以上の状況を踏まえ、当社取締役会は、2012年3月期以来となる配当の実施を決議いたしました。当社は、持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針としており、将来、A種種類株式全てを償還した後も、連結配当性向30%を目安として継

続的な配当の実施に努めてまいります。

MTP フェーズ2の進捗について

当期はMTPフェーズ2の初年度として、堅調なスタートを切ることができました。基本目標の一つである「財務サステナビリティの確立」に向けて、168億円のフリー・キャッシュ・フローを創出するとともに、ネット借入・金利コストの削減も実施いたしました。自己資本比率も17.0%となり着実に改善が進みました。もう一つの目標である「VAガラスカンパニーへの変容・変革の開始」^(*)1)についても、断熱効果を高めたスーパーペースシア[®]の発売や、自動車用ガラス生産用の高精度プレス製造設備の日本及び米国における増強など、様々な取り組みや新製品の導入を実施しVA製品売上を伸ばしました。MTPフェーズ2の指標としていますVA売上比率は44%まで向上し、売上高営業利益率(ROS)^(*)2)も6.2%となり、MTPフェーズ2の順調な進展が見られました。

財務KPI	前期	当期	MTP フェーズ2 /種類株式償還後
【財務目標】			
ROS	5.7%	6.2%	≥ 8%
ネット借入/ EBITDA	5.0倍	4.6倍	3倍
【MTP目標達成後イメージ】			
自己資本比率	15.7%	17.0%	20%
ROE	4.9%	4.7%	10%
VA 売上比率	41%	44%	> 50%

来期以降も、安定的に推移するものと見込まれるグローバルの建築用及び自動車用ガラス市場を背景に、MTPフェーズ2で掲げた4つの重点施策^(*)3)を着実に進めてまいります。また持続的な成長を実現していくため、グループの成長戦略を担う組織として「ビジネスイノベーションセンター」を設置し、新規事業の育成・新しい顧客価値の創造を加速してまいります。

(*)1) VAとは英語のValue-Addedの頭文字に由来

(*)2) 無形資産償却前営業利益をベースに算定

(*)3) MTPフェーズ2で掲げた4つの重点施策:「VA No.1戦略の推進」「成長ドライバーの確立」「ビジネスカルチャーイノベーション」「グローバル経営の強化」

持続的成長可能な社会の実現に向けた取り組みについて

今、私たちの社会は、地球的規模の様々な課題に直面しています。そのような中で当社グループは自らの製造工程で排出するCO₂や廃棄物の削減に積極的に取り組むと同時に、VA製品や技術を通じ、温室効果ガスの排出削減や気候変動の影響緩和、その他の社会的な課題に、大きく貢献できると確信しております。

建築用ガラス事業部門では、創エネに貢献する太陽光発電用ガラスや省エネに大きく寄与するLow-Eガラス、真空ガラスペースシア[®]、防火ガラスなど。自動車用ガラス事業部門では、自動車のCO₂排出量削減やエネルギー効率改善を可能にする軽量合わせガラス

やソーラーコントロールガラス、また安全で快適な移動に貢献するヘッドアップディスプレイ用高面精度フロントガラスや遮音ガラスなど。高機能ガラス事業部門では、自動車のエネルギー効率向上に寄与するバッテリーセパレーターやガラスコード、プリンタ等電子機器の小型軽量化に寄与するセルフォック[®]レンズなど。これらのVA製品の提供を通じて、様々な環境面での課題解決、安全で快適な社会の実現、そして当社グループの事業機会拡大・更なる成長を目指してまいります。

また、当社グループは2018年4月に、太陽光発電設備の大手であるファーストソーラー社(米国)との間で長期のコーティングガラスの供給契約を締結し、併せて米国およびベトナムでのガラス生産能力を増強することを決定いたしました。ファーストソーラー社とはこれまで長年にわたり顧客として、また事業パートナーとして良好な関係を続けており、今回の決定はMTPフェーズ2期間中およびその後の当社グループの成長に大きく貢献するものと考えております。

最後に

当社は、2018年11月22日に創立100周年を迎えます。株主各位をはじめとするステークホルダーの皆様のご支援に支えられ100年の長きにわたり事業を継続することができました。グループ従業員一同、心より感謝申し上げます。次の100年におきましても、持続的に成長する企業として更なる発展を遂げるよう、全社一丸となって企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

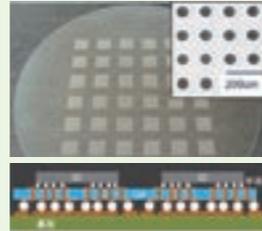
トピックス

微細貫通穴ガラス基板の開発に成功

当社は、厚さ0.1～1mm程度の薄いガラス基板に直径数10～100 μ mの微細な貫通穴を超高密度で開けたガラス基板(微細貫通穴ガラス基板、TGV)の開発に成功いたしました。

近年、スマートフォンの普及による大容量データの利用拡大や、小型電子デバイスの利用シーンの増加により、電子機器には更なる薄型化、高速通信化、低消費電力化が求められています。CPUやメモリなどのIC部品と電子基板を中継する役割を有するインターポーザーが、微細な多数の貫通穴を持つ構造を有することにより電子基板の高密度化が可能となります。

インターポーザーに用いられる材料は、ガラスの他、エポキシ樹脂等の有機材料、シリコンなどがあげられますが、中でもガラスは平滑で反りが少ない、大量生産に適しているなどの利点が多く、ガラスインターポーザーは次世代の電子基板として期待されています。



世界最薄の透明導電膜付ガラス(NSG TEC™)の開発に成功

当社は、ガラス製造工程でのCVD (Chemical Vapor Deposition:化学気相成長)技術により、0.7mm厚ガラス上に、透明な導電性金属酸化物薄膜を製膜することに成功しました。この0.7mm厚の透明導電膜付ガラス(NSG TEC™)は、オンラインCVDで生産可能な世界最薄の透明導電膜付ガラスです。

透明導電膜付ガラスは、太陽電池用をはじめ、建築用、車両用、医療用、各種電子デバイス用への普及が進み、更なる応用の可能性も広がっています。これら用途のニーズに対応するために、ガラスの薄板化、軽量化とともに、耐久性、耐薬品性のある透明導電膜の開発が求められていました。

CVD技術により製膜する透明導電膜は、耐久性、耐薬品性にも優れており、こうした市場のニーズに応えるものです。



創立100周年記念プログラムをスタート

当社は、本年11月22日に創立100周年を迎えます。これを記念して、2018年4月1日から2019年3月31日までの創立100周年期間と定め、特設ウェブサイトと公式Facebookページによる周年記念プログラムを開始しました。

これらの記念プログラムは、多様な人材を活かし、創業以来変わらぬ支援をいただいている多くのステークホルダーの方々と共に、次の100年を創っていく、という決意を表すコンセプト「『人』を力に 新たな100年へ」に基づき制作されました。

100周年記念ロゴは、左端の「1」が当社の「創業」を、中央の「0」が「これまでの100年」を、右端の「0」が「これからの100年」を表しています。三つの数字が動きながら重なり合って、新たな100年への期待を表現しています。



連結業績ハイライト

連結損益計算書(要旨)

	第152期 (2017年4月1日～ 2018年3月31日)	第151期 (2016年4月1日～ 2017年3月31日)
売上高(百万円)	603,852	580,795
営業利益(百万円)	35,663	29,862
税引前利益(百万円)	22,177	14,751
当期利益(百万円)	7,873	7,292
親会社の所有者に帰属する当期利益(百万円)	6,130	5,605
親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり当期利益(円)	47.90	62.04

注: 当社は、2016年10月1日付で普通株式10株を1株に併合しました。「親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり当期利益」は第151期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しています。

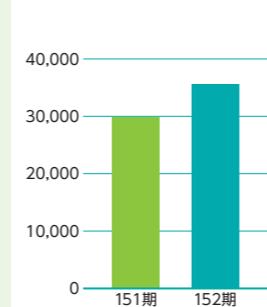
連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	第152期 (2017年4月1日～ 2018年3月31日)	第151期 (2016年4月1日～ 2017年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,163	30,429
投資活動によるキャッシュ・フロー (フリー・キャッシュ・フロー)	△20,359	△10,152
財務活動によるキャッシュ・フロー	△33,889	16,398
現金および現金同等物の期末残高	62,799	79,808

売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



当期利益 (単位:百万円)

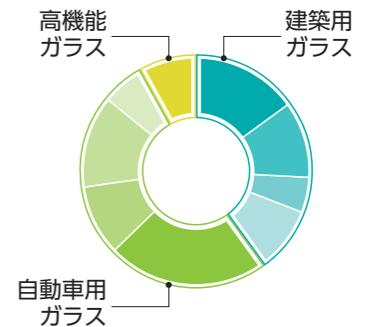


注: 当社は、第146期より国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。上記に記載の営業利益は、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

連結貸借対照表(要旨)

	第152期 (2018年3月31日)	第151期 (2017年3月31日)
非流動資産	538,906	527,818
流動資産	252,976	262,374
資産合計	791,882	790,192
負債合計	649,025	656,484
資本合計	142,857	133,708
負債および資本合計	791,882	790,192

事業別連結売上高構成比



● 建築用ガラス 欧州	15%
● 建築用ガラス 日本	11%
● 建築用ガラス 北米	5%
● 建築用ガラス その他地域	9%
● 自動車用ガラス 欧州	23%
● 自動車用ガラス 日本	10%
● 自動車用ガラス 北米	13%
● 自動車用ガラス その他地域	6%
● 高機能ガラス	8%